

## 第4節 参考人ヒアリング調査

青少年の薬物乱用防止活動に取り組む2団体に、その活動内容や課題を聞いた。以下、それぞれの取組の概要をまとめる。なお、調査結果の詳細は181ページ以下を参照されたい。

### 〈学校での薬物乱用防止活動の取組〉

#### 1. 医療法人せのがわ KONUMA 記念 東京薬物乱用予防センター

(所長 原田幸男氏)

学校などの教育現場を中心に、全国から依頼を受けて児童・生徒、保護者等に薬物乱用防止教育活動を行なっている。多くの児童・生徒に発問を促し意見を聞いたり、正誤についての選択をさせるだけでなく、少人数の場合はロールプレイングなども取り入れ、多面的な指導を実践している。

活動を通じて認識している課題は、まず、小・中・高等学校で(学習指導要領に)位置づけているにもかかわらず、学校における教科の取組に格差が見られることや、自治体(市町村)の取組にも地域差が見られることである。また、学校現場が多忙で、特に中心教科の保健体育担当者の指導力不足や、薬物乱用防止教室開催のための計画性に問題がある場合もある。なお、学校が外部講師の情報を十分に把握できていないため、講師選定に苦勞している現状がある。学校が、講師の経歴や実践された学校での評判などを参考できる仕組みがあるとよいと思われる。

なお、以前に自身も講師として協力した薬物乱用防止教育の中で、継続的で効果的な取組として印象に残ったのは、東京都が実施する「薬物乱用防止高校生会議」が挙げられる。高校生が施設見学や専門家による講義、インターネット等による情報収集などを通して、自ら薬物乱用の問題について話し合い、学習成果を同世代に向けてアピールを行う取組で、参加した高校生が自分の学校で主体的に啓発活動を行ったり、「麻薬・覚せい剤乱用防止運動」東京大会等で成果を発表している。

#### 2. ライオンズクラブ国際協会 330-A地区 青少年育成委員会

(薬物乱用防止担当副委員長 館 親光氏)

平成21年11月現在で、東京地区のライオンズクラブでは600人が薬物乱用防止教育認定講師の資格を取得し、約70名程度が実際に学校で薬物乱用防止教室の講師をしている。東京地区では「東京八王子陵東ライオンズクラブ」の活動が秀でており、10年程前より年間約300万円の予算をほぼ薬物乱用防止教室に集中した活動をしている。その活動を参考に平成16年以降、葛飾区、江戸川区、世田谷区などの教育委員会や学校に働きかけ、主に小学校を中心に薬物乱用防止教室の講師活動を実践している。

ライオンズクラブは全国で同様の活動を行なっているが、他地域の活動で注目されるの

は、広島国際大学、広島フェニックスライオンズクラブ、(財)麻薬・覚せい剤乱用防止センターが提携して、平成21年度より全国で初めて実施された新たな取組である。大学生に学生認定講師の講座（後援：内閣府、厚生労働省、文部科学省、警察庁）を受講して資格を取ってもらい、薬物乱用防止教室の講師を担当すれば大学の単位を与えるというもので、今後の継続的な発展を期待している。

活動を通じて認識している課題は、まず、学校現場で質の高い薬物乱用防止教室を実施できる講師に関する情報が不足していることが挙げられる。また、ライオンズクラブ内でも講師同士の情報の共有が進んでいないため、今後実践事例の共有を図り、各地域で立ちできる講師の育成を進めていくことや、薬物乱用防止教室の依頼数が急激に増加した場合の予算確保も課題となっている。